

西かがわLINK BASEBALL

上達することに、上達する。

私ではなく、私たち。

自ら考え、行動し、仲間と学び、成長し続ける選手へ。

2026-2027 GUIDE BOOK ｜ 小学6年生〜中学1年生 新入団選手募集

CONTENTS

01 上達することに、上達する。
02 「私」から「私たち」へ
03 西かがわでは、どう育てるのか
04 上達を生む「学び方」
05 今、西かがわには誰がいる？
06 中学野球、今どんな選択を考えていますか？
07 卒団後、それぞれの道へ
08 それぞれの生活に、野球が続けられる環境を。
09 実際に活動する主な練習施設
10 活動環境と指導体制を、さらに広げる
11 入団を考えるご家族へ - 費用について
12 「上達する」を、仕組みにする
13 A・B・C 3つの領域から、現在地を見る
14 グラウンドの外にも、練習場所がある
15 座学・学習支援も、同じ学び方で
16 BANDで考える。座学で確かめる
17 なぜ、西かがわはPONY LEAGUEなのか
18 2027年 四国連盟発足予定
19 挑戦できる舞台が、選手の視野を広げる
20 1日では、わからない。
21 中学3年間の、その先へ
22 「私ではなく、私たち。」を、組織の文化へ
23 まず、西かがわを体験してください

私たちが大切にしていること

上達することに、上達する。

保護者の方へ - ひとつの問い

「上手くなる」とは、できることが増えることだけでしょうか。

野球が上手くなること、試合に勝つこと。それはもちろん大切です。しかし、西かがわが目指しているのは、そこで終わる選手ではありません。できなかったことに出会った時、「自分には無理だ」で終わるのではなく、何が起きたのかを見て、考え、仲間や指導者と話し、やり方を変え、もう一度試す。その経験を繰り返すことで、自分で自分を上達させていける力を育てたいと考えています。

「上達することに、上達する。」とは

アウトコースを打てるようになる、速い球を投げられるようになる。それは一つの「上達した結果」です。西かがわが育てたいのは、その一つの技術だけではありません。自分は何ができていないのかを見る。どうすればできるかを考える。練習方法を選ぶ。やってみる。振り返る。修正し、もう一度試す。つまり、「できること」を増やすだけではなく、「できるようになる方法」そのものを身につけること。 その学び方が身につけば、打つ・投げる・守るだけでなく、初めて出会う課題や学習にも、自分で成長する方法を考えられるようになります。

四つの自 - 成長の土台

自主（考える） 自分で考え、判断し、決める。指示を待つだけではなく、今何をするべきかを考える。	**自律（見つめる）** 自分を客観的に見つめ、振り返る。成功も失敗も感情だけで終わらせず、現在地を知る。
自立（高める） 誰かにやらされなくても、自分の力で学び、成長し続ける。	**主体（動く）** 自ら動き出し、仲間にも働きかけ、周りを巻き込んでいく。

四つの自は「これを順番にやれば上達する」という手順ではありません。自分で上達する方法を見つけていくための土台です。練習でも試合でも学習でも、考え、見つめ、高め、動く。この四つを行き来しながら、自分の学び方を育てます。

結果だけではなく、そこへ向かう方法を学ぶ。それが「上達することに、上達する。」です。

「私」から「私たち」へ

共に学ぶことで、自分一人では見えなかったものが見えてくる。

保護者の方へ - ひとつの問い

一人で上手くなることと、仲間と高め合うことは、別のことでしょうか。

「私ではなく、私たち。」は、自分をなくすという意味ではありません。まず自分と向き合い、自分の課題や可能性を知る。その上で、仲間の考え、挑戦、失敗、成功から学ぶ。一人の気づきがチームの気づきになり、仲間の成長がまた自分の成長へ戻ってくる。この循環を西かがわでは大切にしています。

西かがわの成長スパイラル

私 自分を見る	私たち 対話・共有	共創 一緒につくる	新しい私 見方が変わる

新しい自分になったら、そこで終わりではありません。新しい課題に出会い、また仲間と学び、次の自分へ進む。だから成長は一直線ではなく、同じ場所を回りながら少しずつ高くなっていく螺旋のようなものだと考えています。

「ありがとう」も、学びの一つ

野球は一人ではできません。投げてくれる人、捕ってくれる人、球を拾う人、グラウンドを整える人、送り迎えをする家族、施設を使わせてくださる地域。自分が練習できている背景に誰がいるのかに気づくことは、「私」だけで野球を見ない練習でもあります。西かがわでは、感謝を言葉にすることも大切にしています。



一人の成長を、私たちの成長へ。私たちの成長を、また一人の成長へ。

西かがわでは、どう育てるのか

教える。そして、考える余白を残す。

保護者の方へ - ひとつの問い

3年後も、誰かが隣で答えを教え続けてくれるでしょうか。

投げ方、捕り方、打ち方、走り方、身体の使い方、ルール、戦術。知らないことは、まずきちんと教えます。しかし、すべての答えを指導者が先回りして与え続けると、選手は「次の答え」を待つようになります。だから西かがわでは、必要なことを教えた上で、あえて考える余白を残します。

1を教えたら、2まで教えない

1を知らない選手に「自分で考えろ」と言っても、考える材料がありません。だから1は教える。ただし2まで全部教えない。「今どう感じた？」「何が見えていた？」「次はどうしてみる？」と問い、自分の感覚と言葉で次の一歩を探してもらいます。答えがすぐ出なくても構いません。考える時間そのものが練習だからです。

1 教わる 考える材料を持つ	2 気づく 自分で見つける	3 試す 自分で選ぶ	4 自走する 次を自分でつくる

指導者は、前から引っ張るのではなく、横で「教える・問う・待つ・支える」伴走者。試した後にも必要なことは教え、問いかけ、選手自身が次の段へ上がることを支えます。

技術 × 野球脳

技術だけを身につけても、試合の中でいつ、どの技術を使うか判断できなければ生かせません。西かがわでは、投・捕・打・走の技術と同時に「意図する（観る）・予測する・判断する・修正する」という野球脳の4つの力を育てます。たとえば打撃なら、打てたかどうかだけでなく、何を狙ったのか、何を見たのか、何を予測したのか、予測と違った時にどう修正したのかまで考えます。



上達を生む「学び方」

準備・本番・振り返り。試合は、始まる前から始まっている。

保護者の方へ - ひとつの問い

試合が終わった瞬間に、その試合からの学びも終わっていないでしょうか。

西かがわでは「1試合3試合」という考え方を大切にしています。スコアボードに記録される本番だけが試合ではありません。本番までに何を見て、何を準備するか。そして本番で起きたことを、終わったあとにどう振り返り、次へつなげるか。この三つを一つの試合として考えます。

第1の試合｜準備	第2の試合｜本番	第3の試合｜振り返り
相手・自分・状況を見る。目的を持つ。前日から準備する。	見る・予測・判断・実行。その場で修正する。	「なぜ」「次はどうする」を言葉にし、次の準備へ戻る。

この考え方は、試合だけではありません

練習も、勉強も、体験会も同じです。始める前に目的を持つ。やってみる。終わったら自分の感覚や結果を見直す。そして次を決める。「やった」で終わらず、次の行動までつなげることで、経験が学びに変わります。

15分サイクル - 自分で学ぶ練習をつくる

3分 目標を設定する	8分 今日のできてる	3分 振り返る・記録する	1分 次につなげる

15分という短さが目的ではありません。最初に目的・目標を持ち、実践し、自分で振り返り、次を決める。この小さなサイクルを何度も回すことで、P4の「1を教える。2は自分で気づく」という環境を練習の中につくります。指導者が毎回答えを渡すのではなく、選手自身が「次」を見つける。だから、限られた時間でも学び方そのものが育っていきます。



05 CURRENT TEAM

現在の人数も、これから目指す姿も、正直にお伝えします。

保護者の方へ - ひとつの問い

入団した時、一緒に練習し、試合に挑む仲間はどれくらいいるでしょうか。

現在の中学部｜活動選手 21名

中学3年生｜8名

所属6名＋アカデミー生2名。アカデミー生もコルト大会などの活動に参加しています。

中学2年生｜5名

日々の練習・試合を通して、次の学年を支える力を育てています。

中学1年生｜8名

これからの西かがわの中心となる学年。仲間と学び合いながら成長しています。

2027年 新1年生｜現在3名が加入確定

西かがわLINK BASEBALL Jr.から2名、新規入団1名。すでに練習にも参加しながら、新しい仲間を待っています。

その下の年代にも、西かがわの活動につながる子どもたちがいます。

スクール6年生 2名｜スクール5年生 2名｜西かがわLINK BASEBALL Jr. 5年生 5名

※この9名は中学部への入団予定者数ではなく、現在それぞれの活動に参加している人数です。

目指す姿｜各学年12〜15名程度

少人数だからこそ一人ひとりに向き合ってきた良さを残しながら、仲間同士で競い、学び合い、十分な試合経験を積める体制を目指します。現在の人数と、これから目指す人数を分けて示しながら、新しい仲間を募集しています。

中学野球、今どんな選択を考えていますか？

選択肢は、一つではありません。

保護者の方へ - ひとつの問い

「硬式か、軟式か。」その前に、わが子にどんな3年間を経験してほしいでしょうか。

小学6年生の秋から春にかけて、多くの家庭が「中学でどんな野球をするか」を考え始めます。しかし、全員が同じところから考え始めるわけではありません。すでに硬式野球を考えている人もいれば、中学校の軟式野球を考えている人、ソフトボールから次の環境を探している人、まだ何も決めていない人もいます。中学1年生になってから、現在の環境を見直すこともあります。

硬式野球を考えている 硬式かどうかだけでなく、そのチームでどんな3年間を過ごすのかまで見てください。	**中学校の軟式野球を考えている** 軟式と硬式のどちらが上という考えではありません。それぞれの環境を実際に見て考えてください。
ソフトボールから次へ これまで身につけた動きや考え方を生かしながら、違いを知るために体験できます。	**まだ決めていない・迷っている** 体験は「入団する人の最終確認」ではありません。選択肢を知るために参加できます。
現在、中学1年生 今いる環境を否定せず、「これからどんな野球をしたいか」を考え直すこともできます。	

西かがわが決めるのではなく、本人と家族が選ぶ

今の考え	一度、体験	見て・感じる	対話する	自分で選ぶ

硬式野球を選ぶこと自体が目的ではありません。どこで、どんな人たちと、どんな学び方で3年間を過ごしたいのか。その視点を一つ増やしてから選んでほしいと考えています。

これから、どんな野球をしたいですか？

07 NEXT STAGE

一人ひとりが、自分の次の道を選んできました。

保護者の方へ - ひとつの問い

中学3年間の先に、どんな選択肢を持てる環境であってほしいでしょうか。

県内｜19校

01 英明高等学校

02 香川県立高松商業高等学校

03 寒川高等学校

04 香川県藤井高等学校

05 尽誠学園高等学校

06 四国学院大学香川西高等学校

07 香川県立丸亀城西高等学校

08 香川県立坂出商業高等学校

09 香川県立観音寺第一高等学校

10 香川県立観音寺総合高等学校

11 香川高等専門学校 高松キャンパス

12 香川県立高瀬高等学校

13 香川県立笠田高等学校

14 香川県立多度津高等学校

15 香川県立飯山高等学校

16 香川県立志度高等学校

17 香川県立坂出高等学校

18 香川県立丸亀高等学校

19 香川県立琴平高等学校

県外｜8校

帝京第三高等学校（山梨県）

鳥取城北高等学校（鳥取県）

徳島県立鳴門高等学校（徳島県）

徳島県立脇町高等学校（徳島県）

徳島県立つるぎ高等学校（徳島県）

徳島県立徳島商業高等学校（徳島県）

聖カタリナ学園高等学校（愛媛県）

新居浜工業高等専門学校（愛媛県）

学校を順位づけするための一覧ではありません。県内外のさまざまな進路へ進み、それぞれが自分の次の道を選んできた実績として掲載しています。

それぞれの生活に、野球が続けられる環境を。

地域の中に、私たちのグラウンドがある。

保護者の方へ - ひとつの問い

野球を続けるために、生活をすべて野球へ合わせる必要があるでしょうか。

西かがわLINK BASEBALLには、専用グラウンドはありません。地域の公共野球場や運動施設を大切に活用させていただきながら活動しています。屋外球場、室内練習場、座学のできる会議室。その日の目的や選手の成長に合わせて環境を使い分けます。地域に支えられて野球ができる。だからこそ施設を大切に使い、地域への感謝を忘れない。それも学びの一つです。

基本の練習日・時間

曜日	基本会場	時間
火曜日	レグザムボールパーク丸亀	18:00-21:00
水・木曜日	詫間市民運動場	17:00-21:00
土・日・祝日	各公共野球場・運動施設	9:00-17:00

※基本スケジュールです。大会・施設状況等により変更する場合があります。平日3回すべての参加を一律に求めるものではありません。学校生活、学習塾、家庭の事情も含め、それぞれの生活の中で継続できる参加方法を考えます。送迎が難しい場合も、まずご相談ください。可能な範囲での対応や乗り合わせ等を含め、継続できる方法を一緒に考えます。





週末・長期休暇 - 地域の施設を目的に合わせて活用

三豊市・観音寺市などの公共野球場・運動施設を活用し、実戦、守備、基本動作など目的に応じて練習を組み立てます。長期休暇には、希望する選手が自主的に練習できる機会も設けます。全員参加の強制的な強化練習ではなく、「もっとやりたい」「ここを練習したい」と思った選手が自分で選んで参加する時間です。

やらされる練習ではなく、自分で選んで参加する練習へ。

実際に活動する主な練習施設

「どこで練習するのか」を、入団前に具体的にお伝えします。

地域の公共施設を、練習目的に合わせて大切に活用しています。



観音寺市総合運動公園野球場



山本ふれあい運動公園



豊中サン・スポーツランド野球場



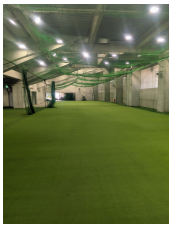
詫間市民運動場



萩の丘運動公園



レクザム ボールパーク丸亀



レクザム ボールパーク丸亀｜室内



レクザム ボールパーク丸亀｜素振りスペース



レクザム ボールパーク丸亀｜ブルペン

※大会・施設予約・練習目的により、使用会場は変更する場合があります。

活動環境と指導体制を、さらに広げる。

通える場所を増やすだけではなく、学べる場所を増やす。

保護者の方へ - ひとつの問い

「行けない日がある」ことを、成長の機会がなくなることにしないために。

現在の活動環境に加え、2027年から丸亀方面の室内拠点、坂出方面のグラウンド拠点を開始予定です。
丸亀・坂出方面の選手にも、指導を受け、仲間と学び、継続して成長できる環境を広げます。

2027年｜丸亀方面の室内拠点 ＋ 坂出方面のグラウンド拠点

小学5・6年生のスクール活動も2027年から

「考える・試す・振り返る・修正する」という学び方を、より早い年代から経験できる場をつくります。

2026年11月｜指導・支援スタッフ3名が加わります

鳴瀬 烈士

坂出商業高校 → 四国学院大学 →
香川オリーブガイナーズ

川上 起平

高知商業高校 → 四国学院大学 →
香川オリーブガイナーズ →
アークバリア

谷口 将也

スポーツトレーナー・柔道整復師

経歴を売りにするのではなく、それぞれの専門性を生かし、技術・身体・考え方を多面的に支えます。
選手を育てる人も学び続ける。一般社団法人LINK・SPORTSとして、指導・支援体制を整えていきます。

遠方の練習試合・遠征も、保護者の送迎だけに頼らない体制へ

平日の練習への送迎が難しい場合は、まずご相談ください。家庭や学校の状況に合わせ、
参加する練習日についても一緒に考えます。LINK・SPORTSスタッフによる送迎についても、
地域や練習場所に応じた対応を検討しています。保護者同士の乗り合わせだけに頼るのではなく、
送る側・乗せてもらう側の双方が負担を感じにくい仕組みをつくっていきます。

遠方への練習試合や遠征では、可能な範囲で代表・スタッフによる選手の移動を基本とし、
保護者の送迎負担をできるだけ軽減できる体制を整えていきます。人数や行き先に応じて、
ワゴン車等を利用した移動方法も検討します。

野球を続けたいのに、送迎だけが理由で諦めなくていい環境をつくる。

入団を考えるご家族へ - 費用について

入団後に必要となる基本費用を、選ぶ前にお伝えします。

保護者の方へ - ひとつの問い

入団してから知るのではなく、選ぶ前に必要な費用を知っておきたいと思いませんか。

項目	金額	時期
入会金	10,000円	入団時
月会費	10,000円	毎月
LINK・SPORTS 年間登録費	5,000円	年1回
PONY本部 選手登録費	7,000円	年1回
連盟登録費	前期3,000円＋後期3,000円	前期・後期
スポーツ保険	別途	加入時

そのほかに必要となる費用

- ユニフォーム等の初期費用は、必要なものに応じて別途かかります。
- 大会参加費は原則として会費から支出します。宿泊を伴う遠征では、宿泊費等を実費でお願いする場合があります。
- 遠征や大会で別途費用が必要な場合は、事前に内容をお伝えします。
- 登録費等はリーグ・連盟の規定変更により変わる場合があります。

費用も、送迎も、入団前に相談してください。

家庭によって、通学・送迎・兄弟姉妹・仕事などの状況は異なります。
入団を決めてから相談するのではなく、選ぶために、分からないことを事前に確認してください。
野球を続けたい気持ちと家庭生活の両方を大切にしながら、一緒に方法を考えます。

「上達する」を、仕組みにする。

未来を描き、現在地を知り、今日の行動へつなげる。

保護者の方へ - ひとつの問い

100球練習したことと、100球から学んだことは、同じでしょうか。

練習をたくさんしたことと、たくさん学んだことは同じではありません。100球受けた、100球打った。
その中で何に気づき、何を変え、次に何を試すのか。西かがわでは「何球やったか」だけでなく、
「何球から学んだか」を大切にし、目標・現在地・実践・振り返りを一つの学びとしてつなげます。

未来から今日へ - My Baseノート

My Baseノートは、練習内容を書き残すだけの野球ノートではありません。「どんな選手になりたいのか」「どんな自分になりたいのか」という未来を描き、そこから今の自分を見つめ、今日、自分は何をするのかまでを自分で考えるためのノートです。

まず、目指したい未来やビジョンを描く。そこから目的を考え、目標を決める。そして、その目標に近づくために「今日の自分は何をするのか」という行動目標まで落とし込みます。練習や試合の後は、できた・できなかっただけで終わらず、何を感じたのか、何に気づいたのか、なぜそうなったのか、次は何を変えるのかを振り返り、次の行動へつなげます。

指導者が答えを書かせるノートでもありません。選手自身が考え、言葉にし、自分の成長を自分でつくっていく。その過程を、指導者は問いかけながら伴走します。そこに残るのは、単なる練習記録ではなく、その選手が「どうやって上達してきたのか」という成長の記録です。

ビジョン	目的	目標	行動目標	実践・振り返り

未来と現在地をつなぐ

未来だけを見ても、今の自分が分からなければ次の一歩は決まりません。反対に、現在地を測るだけでも、向かいたい未来がなければ「何のために変えるのか」が見えません。だから、My BaseとABCをつなげます。



My Baseで未来を描く。ABCで現在地を知る。そこから、自分で次の行動を考える。

未来を描く → 現在地を知る → 考える → 試す → 振り返る → 修正する → また進む

次のページで、ABCの3領域から「現在地」を詳しく見ます。

A［身体の土台］ → B［身体・脳・感覚の使い方］ → C［野球としての発揮］

A・B・C 3つの領域から、現在地を見る。

測定は評価の終点ではなく、次の練習を考える入口。

保護者の方へ - ひとつの問い

測ることは、比べることでしょうか。それとも、次の成長を考えることでしょうか。

A｜フィジカル・身体能力

身体の土台

体組成・走る・跳ぶ・パワー・スピード
・バウンディングなど

B｜野球を支える能力

身体・脳・感覚の使い方

視覚・反応・予測・判断・空間認知・H
and-Eye・協調・バランス・重心
操作・タイミングなど

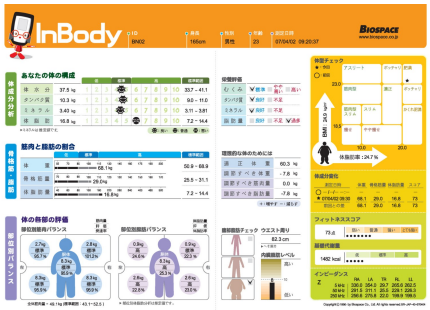
C｜野球パフォーマンス

野球としての発揮

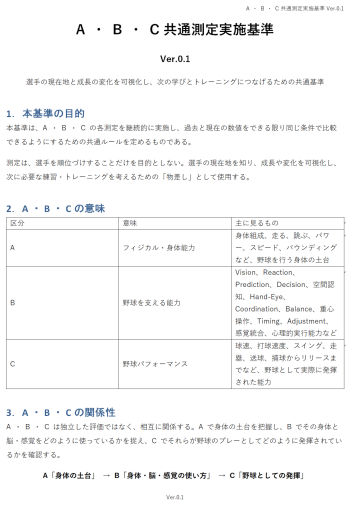
球速・打球速度・スイング・走塁・送球
・捕球からリリースなど

A［身体の土台］ → B［身体・脳・感覚の使い方］ → C［野球としての発揮］

InBodyなどで身体の現在地を知るだけでなく、身体・脳・感覚をどう使っているか、
そしてそれが実際の野球動作としてどう発揮されているかまで、A・B・Cをつなげて見ます。
測った数字を終点にせず、「何が変わったか」「なぜ変わったか」「次は何を変えるか」を考えます。



A｜InBody・身体組成



A・B・C 共通測定実施基準

Ver.0.1

選手の現在地と成長の変化を可視化し、次の学びとトレーニングにつなげるための共通基準

1. 本基準の目的

本基準は、A ・ B ・ C の各測定を継続的に実施し、過去と現在の数値をできる限り同じ条件で比較できるようにするための共通ルールを定めるものである。

測定は、選手を順位づけすることだけを目的としない。選手の現在地を知り、成長や変化を可視化し、次に必要な練習・トレーニングを考えるための「物差し」として使用する。

2. A ・ B ・ C の意味

区分	意味	主に見るもの
A	フィジカル・身体能力	身体組成、走る、跳ぶ、パワー、スピード、バウンディングなど、野球を行う身体の土台
B	野球を支える能力	Vision、Reaction、Prediction、Decision、空間認知、Hand-Eye、Coordination、Balance、重心操作、Timing、Adjustment、感覚統合、心理的実行能力など
C	野球パフォーマンス	球速、打球速度、スイング、走塁、送球、捕球からリリースまでなど、野球として実際に発揮された能力

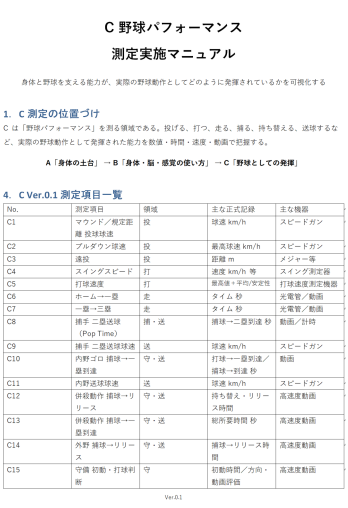
3. A ・ B ・ C の関係性

A ・ B ・ C は独立した評価ではなく、相互に関係する。A で身体の土台を把握し、B でその身体と脳・感覚をどのように使っているかを捉え、C でそれらが野球のプレーとしてどのように発揮されているかを確認する。

A「身体の土台」 → B「身体・脳・感覚の使い方」 → C「野球としての発揮」

Ver.0.1

A・B・C 共通測定実施基準



C 野球パフォーマンス
測定実施マニュアル

身体と野球を支える能力が、実際の野球動作としてどのように発揮されているかを可視化する

1. C 測定の位置づけ

C は「野球パフォーマンス」を測る領域である。投げる、打つ、走る、捕る、持ち替える、送球するなど、実際の野球動作として発揮された能力を数値・時間・速度・動画で記録する。

A「身体の土台」 → B「身体・脳・感覚の使い方」 → C「野球としての発揮」

4. C Ver.0.1 測定項目一覧

No.	測定項目	領域	主な正式記録	主な機器
C1	マウンド／規定距離 投球球速	投	球速 km/h	スピードガン
C2	ブルダウン球速	投	最高球速 km/h	スピードガン
C3	遠投	投	距離 m	メジャー等
C4	スイングスピード	打	速度 km/h 等	スイング測定器
C5	打球速度	打	最高値＋平均/安定性	打球速度測定機器
C6	ホーム→一塁	走	タイム 秒	光電管／動画
C7	一塁→三塁	走	タイム 秒	光電管／動画
C8	捕手 二塁送球（Pop Time）	捕・送	捕球→二塁到達 秒	動画／計時
C9	捕手 二塁送球球速	送	球速 km/h	スピードガン
C10	内野ゴロ 捕球→一塁到達	守・送	打球→一塁到達／捕球→到達 秒	動画
C11	内野送球球速	送	球速 km/h	スピードガン
C12	併殺動作 捕球→リリース	守・送	持ち替え・リリース時間	高速度動画
C13	併殺動作 捕球→一塁到達	守・送	総所要時間 秒	高速度動画
C14	外野 捕球→リリース	守・送	捕球→リリース時間	高速度動画
C15	守備 初動・打球判断	守	初動時間／方向・動画評価	高速度動画

Ver.0.1

C｜野球パフォーマンス測定

測る → 気づく → 考える → 練習を変える → 試す → 振り返る → また測る

My Base＝未来・目標 ｜ ABC＝現在地 ｜ 練習＝変える ｜ 再測定・振り返り＝次へ

他人との順位づけではなく、以前の自分との変化を見る。数値と感覚の両方を、次の行動につなげます。

グラウンドの外にも、練習場所がある。

野球をする。野球を考える。そして、もう一度グラウンドで試す。

保護者の方へ - ひとつの問い

プレーが終わったあと、「なぜそうなったか」を考える時間はありますか。

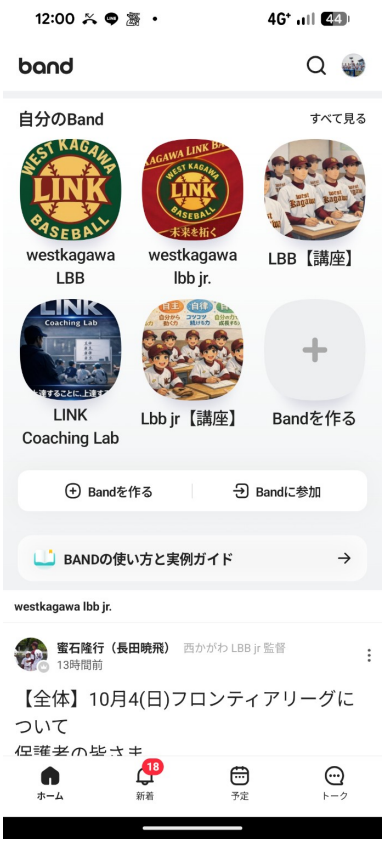
グラウンド外の野球学習

試合状況、ルール、数字、予測、判断、戦術などをBANDで学びます。グラウンドでは一瞬で過ぎてしまうプレーも、いったん止めて考えることで見えることがあります。答えを覚えることより、「何を見るか」「どう予測するか」「なぜその判断をするか」「外れた時にどう修正するか」を考えます。

見る・読む	思い出す	答える・話す	練習で使う	振り返る	修正する

BANDは「グラウンド外の練習場所」

教材を一度見て終わりにはしません。クイズや問いで思い出し、グラウンドで使い、経験したことをもう一度言葉にします。同じ内容も形を変えて再登場させ、理解を深めます。下の画像は、実際にチーム内で使っているBAND講座の一例です。





座学・学習支援も、同じ学び方で。

グラウンドの外で考え、またグラウンドへ戻る。



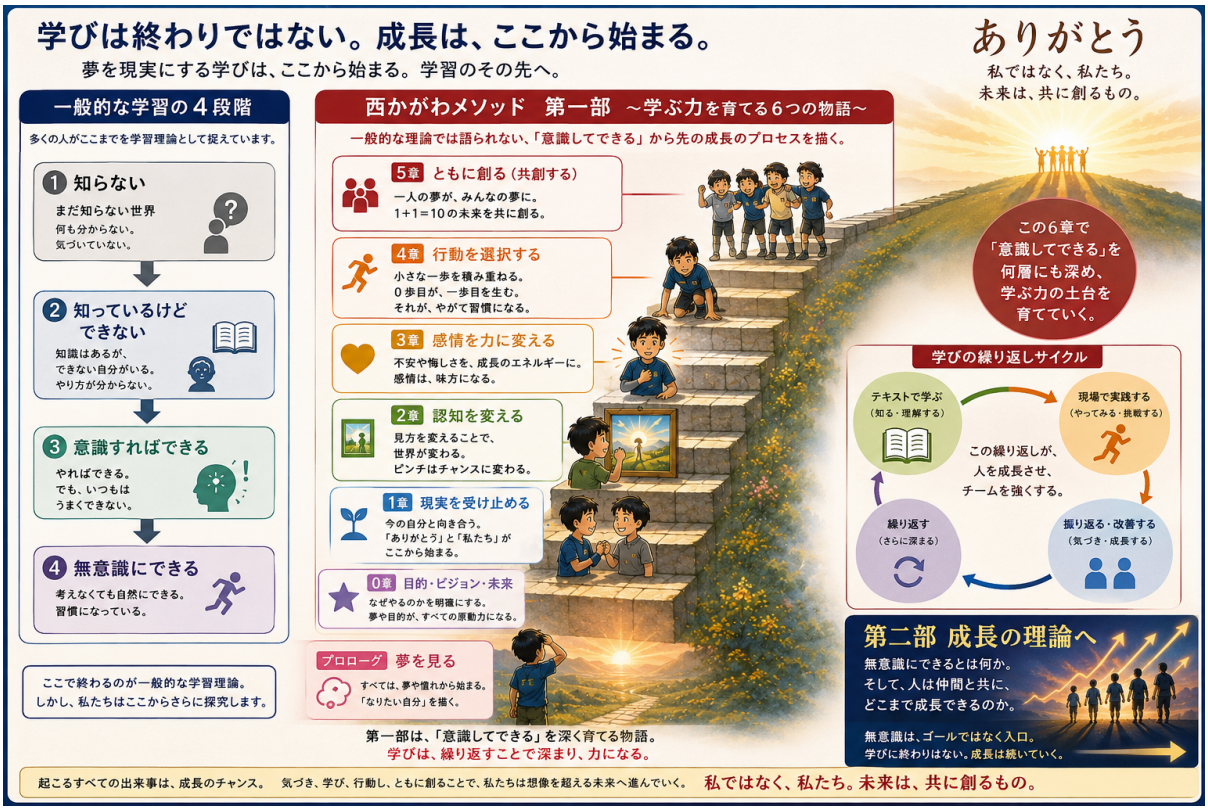


学習支援 - 野球と同じ「学び方」を

野球だけができればいいとは考えていません。学校の学習や基礎学力にも向き合います。分からないことに出会い、やってみて、間違え、考え直し、もう一度やる。野球で育てたい学び方は、勉強にもつながります。座学の時間も「教えてもらうだけ」の時間ではなく、自分で考え直す時間にしていきます。

「何球やったか」から、「何球から学んだか」へ。

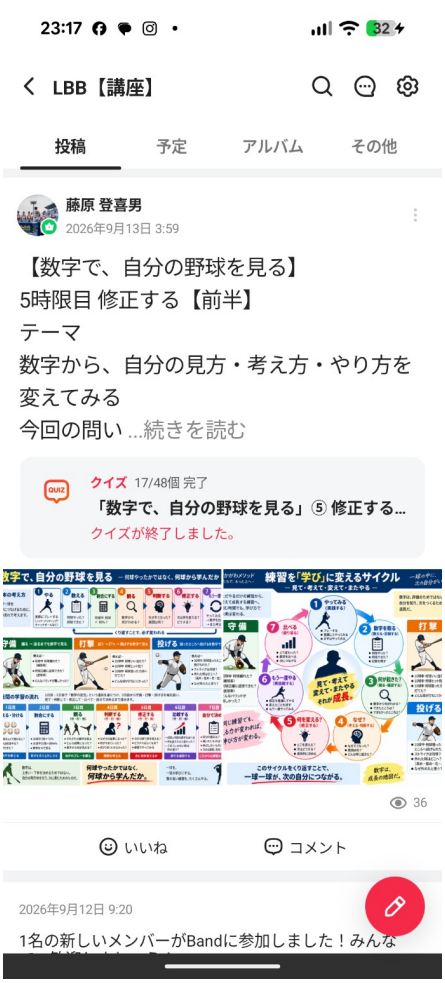
学びは終わりではない。成長は、ここから始まる。



テキストで学ぶ → 現場で実践する → 振り返る・改善する → 繰り返す

BANDで考える。座学で確かめる。グラウンドで試す。

「数字で自分の野球を見る」も、「ノーヒットで点を取る」も、グラウンド外の学びの一例です。





教材そのものを覚えることが目的ではありません。問いやクイズで考え、練習や試合で使い、振り返って修正する。BANDは、その学びをグラウンドの外でも続けるための場所です。





座学で考える → 室内で磨く → グラウンドで試す → また考える

なぜ、西かがわはボニーリーグなのか。

ポニーの良さと、西かがわの育成が重なる。

保護者の方へ - ひとつの問い

リーグを選ぶ時、大会数だけでなく「どんな選手を育てたいか」を見ていますか。

西かがわがポニーリーグへ移った理由は、「全国大会へ行きやすいから」ではありません。私たちが大切にしてきた、一人ひとりを成長の途中として見ること、試合経験を育成につなげること、今の上手さだけで選手の可能性を決めないこと。ポニーリーグの仕組みや考え方には、西かがわの育成理念と重なる部分があります。

リーグ戦だから、「次の本番」で試し直せる。

一発勝負のトーナメントでは、負けた瞬間にその大会が終わることがあります。たとえば秋の大会でエラーをした。そこから学び、修正しても、次の公式戦が春までないこともあります。リーグ戦では、一つの大会の中で複数の試合を経験し、その後に決勝トーナメントへ進む機会があります。緊張のある本番で気づいたことを、振り返り、修正し、また次の本番で試す。その「次」があることを、西かがわは大切にしています。

本番で試す	気づく	振り返る	修正する	次の本番へ

今の完成度で、3年後を決めない

西かがわには、入団のためのセレクションはありません。小学6年生・中学1年生の時点で、速い球を投げられるか、遠くへ飛ばせるかだけで未来を決めることはできないと考えているからです。身体の成長する時期も、技術が伸びる時期も、理解が深まる時期も一人ひとり違います。

A・Bという固定された序列ではなく、経験をデザインする

複数チームで大会へ参加できる仕組みも、育成に生かせると考えています。「上のチーム・下のチーム」という一年間固定の序列にするのではなく、今その選手にどんな試合経験が必要なのか、どんな役割を経験してほしいのかを考える。大会で挑戦し、振り返り、次の経験へつなげます。

西かがわ「上達することに、上達する。」 × PONY「次の本番がある。」

PONY
Protect Our Nation's Youth

PONYの新シーズンは、2027年1月1日から始まります。

保護者の方へ - ひとつの問い

試合機会を確保しながら、移動の負担も小さくできないでしょうか。

2027年　四国連盟発足予定

四国内でPONY LEAGUE加盟チームが増え、2027年には四国連盟が発足する予定です。これまで中四国連盟では、岡山・福山・広島方面への公式戦遠征も多く、移動時間や交通費などがご家庭の負担になることもありました。

これまで

中四国の広いエリアで公式戦。岡山・福山・広島方面への移動もあり、橋を渡る遠征が多い環境でした。

2027年から

四国内で公式戦を行う機会が増え、試合機会を確保しながら、移動時間や遠征費などの負担軽減にもつながることが期待されます。

学校年度の4月始まりではなく、PONYの新シーズンに合わせて「2027年」と表記します。

挑戦できる舞台が、選手の視野を広げる。

一人のスターではなく、「私たち」でつかんだ経験。

保護者の方へ - ひとつの問い

「選ばれること」がゴールでしょうか。それとも、経験を次の成長へ持ち帰ることでしょうか。

2026年、西かがわはポニーリーグの複数の全国規模大会・選抜機会に挑戦しました。ここで伝えたいのは、タイトルの数だけではありません。セレクションで突出した選手だけを集めた年代ではなく、人数も決して多くない中で、多くの選手が普段とは違う舞台を経験できたことです。

2026 挑戦のロードマップ

時期	大会・機会	経験
3月	エスプランナーカップ 第10回全日本選抜中学硬式野球大会	全国大会
5月	ECCインビテーション広澤克実杯 全日本地域対抗選手権大会 兼 日本代表選手選考会	中四国選抜として挑戦
7月	マルハンインビテーション大倉カップ 第52回全日本選手権大会	全国大会
8月	第5回西日本大会	1・2年生の挑戦
11月	マルハンカップ 第10回全日本コルトリーグ中学野球選手権大会	全国大会へ

中四国選抜から、日本代表選考の舞台へ

日本代表選考につながる地域対抗大会には、中四国選抜として西かがわから複数選手が参加しました。当時の対象学年のチーム規模から見ても、多くの選手がチーム外の選抜環境を経験したことになります。その先でJAPAN PONY選抜として海外の舞台を経験した選手もいます。

過去から変わらないこと

この考え方はポニー移籍後に突然始まったものではありません。リトルシニア時代にも、四国大会で優勝し、ジャイアンツカップ予選を勝ち抜いて全国大会への出場権を得た経験があります。コロナ禍により実際の全国大会出場には至りませんでしたが、少人数でも、入団時の完成度だけで選手を決めず、仲間と積み重ねる姿勢は変わっていません。詳細な年度別実績は公式ホームページで紹介します。

一人が選ばれたのではなく、私たちで、そこへたどり着いた。

1日では、わからない。

チームのことも。選手の可能性も。

保護者の方へ - ひとつの問い

ある一日の「上手い・まだできない」だけで、その子の3年後を決められるでしょうか。

グラウンドの広さや設備は、一度見れば分かります。しかし、指導者が失敗した選手にどう声をかけるのか、選手同士がどんな言葉を交わすのか、自分がその中に入った時にどう感じるのかは、パンフレットだけでは分かりません。だから西かがわでは、普段の練習そのものを体験してもらいます。

1日体験会
まず、西かがわを感じてみる時間です。特別な体験会用メニューだけではなく、普段の練習に入り、投・捕・打・走に取り組みます。指導者がどんな問いをするのか、選手たちがどう動くのか、自分がどんな気持ちになるのかを実際に確かめてください。

成長体験プログラム
一定期間繰り返し参加しながら、自分の変化まで体験する時間です。技術だけでなく、考え方、気づき、動き、仲間との関わりも見ていきます。「評価される期間」「選考される期間」ではありません。本人と家族、そして私たちがお互いを知る時間です。

体験にも「1試合3試合」

BEFORE 今日は何を見る？	PLAY やってみる	AFTER 何が変わった？	NEXT 次はどうする？

体験の中でも「やってみる → 気づく → 考える → 変えてみる → もう一度やってみる」を繰り返します。できなかったことを見つけるだけでなく、少し変わった、分かった、次はこうしたい、という感覚まで持ち帰ってもらうことを目指します。



選ばれるための体験ではなく、自分で選ぶための体験。

中学3年間の、その先へ。

一人の成長を、私たちの成長へ。

保護者の方へ - ひとつの問い

中学3年間が終わった時、野球の技術以外に、何が残っていてほしいでしょうか。

西かがわLINK BASEBALLは、中学生の3年間だけを切り取って考えるチームではありません。小学生の頃に持っていた「なんで？」という疑問や、やってみたいという気持ちを中学生へつなぎ、その先の高校、大学、社会へつなげていく。野球を通じて「自分で学び続ける人」を育てることが、私たちの目指す方向です。

小学生 「なんで？」	中学生 考える・試す・修正	高校・その先 自分で学び続ける

チームの中だけで、育てない

選手の成長は、チームだけでつくられるものではありません。家庭、指導者、学校、地域、大学、社会人。それぞれが違う立場から関わることで、選手は多くの価値観や考え方に出会います。四国学院大学との連携や、毎年8月第1週に行う「四国学院大学学長杯中学少年野球大会」も、普段とは違う人や野球に触れる機会の一つです。

2027 - 学びたい選手が、学べる場所を

LINK・SPORTSとして、小学生・中学生、硬式・軟式など所属の違いだけで学びの機会を分けず、学びたい選手が学べるスポーツ活動・スクールの展開を進めます。また、選手に成長を求めるなら、指導者も学び続ける必要があります。技術をどう教えるかだけでなく、どう問いかけるか、どう待つか、どう気づきを引き出すか。指導者・コーチが学ぶ機会もつくっていきます。

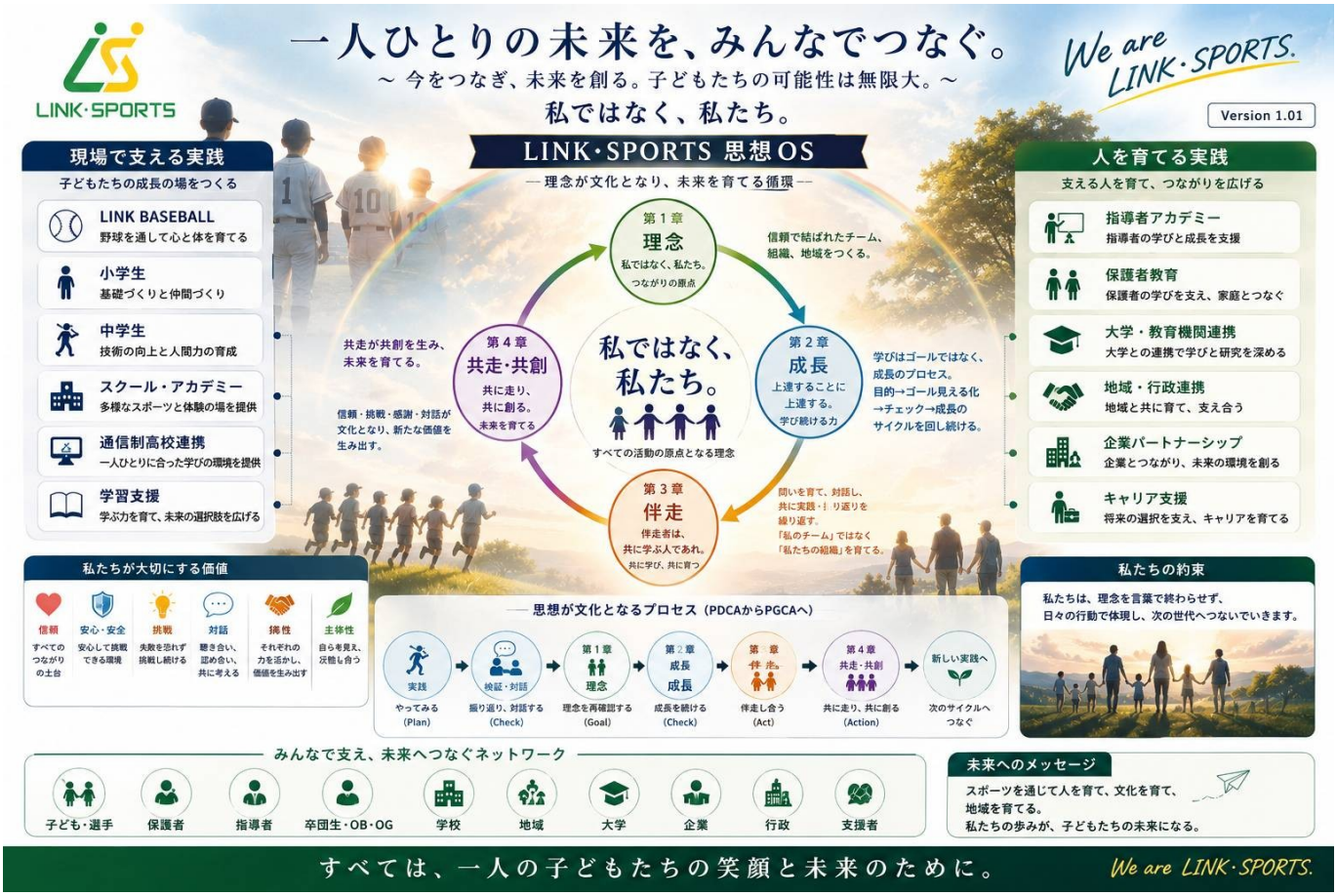
西かがわの、その先にあるLINK・SPORTS。

保護者の方へ - ひとつの問い

一つのチームだけでなく、子どもの未来を誰と支えていきたいでしょうか。

西かがわLINK BASEBALLは、一般社団法人LINK・SPORTSが運営する育成活動の一つです。

野球チームだけで完結せず、指導者・保護者・大学・地域・企業などとのつながりを育てます。



一般社団法人 LINK・SPORTS

LINK BASEBALL／Jr.／スクール・アカデミー／学習支援

指導者育成・講習／大学・教育機関連携／地域・企業との共創へ

「私ではなく、私たち。」を、チームだけでなく組織の文化へ。

まず、西かがわを体験してください。

見て、やって、感じて、考える。そして、自分で選ぶ。

保護者の方へ - ひとつの問い

パンフレットだけで、子どもに合う環境を決められるでしょうか。

このGUIDE BOOKを読んでも、西かがわのすべてを伝えることはできません。選手の表情、指導者との距離、仲間同士の言葉、失敗した時の空気、練習の中で自分がどう感じるか。それは実際のグラウンドでしか分からない部分です。だから、入団を決める前に、まず一度体験してください。

募集対象

小学6年生〜中学1年生。硬式野球を考えている選手、中学校の軟式野球を考えている選手、ソフトボール経験者、まだ進路を決めていない選手、現在中学1年生で今後の環境を考えている選手も対象です。

募集・体験期間

2026年10月〜2027年3月。入団を決めていなくても参加できます。まず環境を知るための体験としてご利用ください。

1日体験会

まず、西かがわを感じてみる。普段の練習に入り、選手・指導者とのやり取りや練習の進め方を実際に体験します。

成長体験プログラム

自分の変化まで、体験する。一定期間繰り返し参加しながら、自分の気づきや動き、考え方の変化まで確かめます。入団選考ではありません。



お問い合わせ

西かがわLINK BASEBALL
代表 藤原 登喜男
TEL 090-5147-1122
E-mail westkagawa.lbb@gmail.com
Instagram 公式アカウントDM
公式ホームページ 体験申込ページ

どのチームを選ぶか。その答えを、私たちが決めることはできません。見て、やって、感じて、考える。そして、自分で選ぶ。そのために、まず一度、西かがわのグラウンドへ来てください。

私ではなく、私たち。
共に考え、共に学び、共に創る。